

---

# 田舎暮らしのさなえっぴ

浜口早苗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

田舎暮らしのさなえっつい

### 【Nコード】

N5303N

### 【作者名】

浜口早苗

### 【あらすじ】

都会育ちのさなえが突然、田舎暮らしをすることに。アーティストのダーリンと、ちょっと風変わりな家族、仲間達の交流を、のんびりしたLAHOSな暮らしを綴っていきます。

私がダーリンと暮らし始めたのは数年前。

どちらかというと、彼の住んでいる家 兼 アトリエに私が転がり込んだ形で始まった。

彼の家は郊外の山の近く。自然がまだまだ残っている場所だ。

温泉だって近くにある。

なんていい所なんだ！と、最初は思った。

でも私は都会生まれの都会育ち。

最初は旅の長期版みたいだったけれど、やっぱり暮らすとなると不便なことは多い。

しかも私は、大の虫嫌い。夏の間など、見たこともない虫達に出会えた、という感動はなく、毎日が恐怖の連続だ。

だいたい、ムカデなどとは一生出会うことはないと思っていたけれど、家の中をあの大なムシにたくさん足を使って闊歩されると、見捨てておく訳には行かない。。。あの虫は、刺したりして、危険なのだ。。。

小学生の頃、私は「シートン動物記」が大好きで、何度も何度も読み返していた。あまりに何度も読み返しすぎて、さすがに飽きたのでそろそろ違うものを、と選んだのが「ファーブル昆虫記」だった。

私にとって、なんだか2大シリーズみたいで、小学生としてこの2つはマストで読まなければいけないもの的に思っていたから、いざ読まん！と、勢い込んで読みはじめたけれど、確か第一章の「ふんころがし」のところでも早くも断念した。自分は昆虫には向かない

のだ、と思い知ったのだった。

そういえば、最近、サッカーのワールドカップアフリカ大会で、糞ころがしのマスケットが出てきていた。懐かしかったなあ。アフリカでは大地を豊かにしてくれる大切な虫なのだそうだ。

そんな虫恐怖の毎日でも、日暮しの声が聞こえると、本当に幽玄な気持ちになる。朝と夕に聞く日暮しは、涼しげだ。ここに住んでていいな、と思えるときだ。

さて、ダーリンのことを少し。彼はそこそこの画家で、個展もたまに開く。けれど、それだけでは食べていけないから、近くの学校で美術の先生もしている。

思えば、私は子供の頃から絵が上手に書ける人に憧れてきた。小学校4年生の頃、隣に座っていた男の子が、冬のオリンピックをテレビで見て、ジャンプの絵を描いていた。

その時私が何を書いたのかなんて、覚えていない。でも、その子が書いた絵は今でも記憶に残っている。。。

多分そのときに褒めて、褒めて、褒めちぎったんだろう。とにかく、感動したから。

その後、その子から告白されて、どうしたらいいのか分からなかった自分をその後何年も責め続けた。結局、小学校を卒業した後、その彼とは2度と会うことがなかったから。

今のダーリンもやっぱり絵がきつかけだった。

何気に彼の作品は知っていて、偶然個展で出会ったのだった。

彼の絵は気に入ってたし、だから個展にもいったけれど、ものすごいファンっていうわけではなかった。

下調べもしてないし、個展にいった後、図書館で本を借りてきてどんな経緯なのかなんて知ったくらいだった。

でも、彼は素直に喜んでくれた。自分の作品を好きになってくれる人がいて、「うれしい」という。純粹な人なのだ。

ステキな人だな、と思った。

ま、そんな馴れ初めはまた、おいおい話すこととして、どんな風な田舎暮らしなのか、退屈に見える田舎暮らしの日々を書き綴っていく。

ここで、うちの家族を少し紹介したい。

大地： 猫 オス6才 チンチラペルジャン おっとりしていて猫らしいが、高いところに登るのが苦手。全然猫らしくない。。。

ゲンタ： 岩リス オス3才 ペットショップで売れ残っていたのを買ってきた。

ブリリン： へび 種類は不明 性別不明（だけれど見た目からブリリンにした。ダーリンはカトリーヌといったが。。。） 何処かで飼われていた様だが捨てられたのか。。だから拾ってきた。薄緑色のまだら模様 性格はいたって温厚

以上3匹が家族 本当はブタとかヤギとか鶏系も飼ってみたいのだがまだ実現はしていない。ふれあい動物園みたいのができればいいな、と思っている。

一応家族だから、特別なことがない限りケージには入っていないから、彼らは家の中を自由に移動している。ただゲンタだけは逃亡しないようになるべく1室に閉じ込めている。外に出してしまうと戻って来れないかもしれないし、まず、生きていけないだろう。

ブリリンのお気に入り場所は、アトリエ。天井が高くて、結構餌になるような虫も多いからだと思う。  
時々、ダーリンの制作の邪魔をするようだ。たまに追い出されている。。。

ブリリンに出会ったのは、ちょうどダーリンが他の制作のため、出張中でいないときだった。だから、連れて帰ってきて誰もいないアトリエに放置しておいた。嫌なら出て行くのだから、と改めて、ダーリンが帰ってきたときにはすっかり忘れていた。だから、ちよつとした騒動になったのだが。。。

それ以来ダーリンは長期出張から帰ってくるたび、ちよつとドキドキするのだそうだ。また、家族が増えているのじゃないかと。。。

その期待に私は答えなければ、と、思っているのだった。

後は庭に家庭菜園を作りたいのだが、これがなかなか大変だ。家庭菜園というより、サンプル菜園。

いつか量産できるよう、サンプルで野菜なんかを作る。自信が付いたらより、大きな場所を借りて農業をやりたいのだった。

ダーリンの故郷は東北で、実家では農業をやっている。そのうち、そこへ修行に行こう。

そうそう、東北のことも触れておきたい。言葉に関して、私としては東京語とは別の言語のような気がする。ヨーロッパでも、オランダ語とデンマーク語はかなり似ていて、お互いの言語を話しながらも会話をしているのをたびたび目撃した。「お互に通じるの？」と、一度たずねたときに、彼らは、「何となくわかる」と言っていた。

しかし、東北の言語では、なんとなくどこか、どうしようもなく分からないときがある。親戚から電話が掛かってきて、一度泣きそうになったことがあった。そのときにダーリンはいなくって、何とか体裁を保って切った（つもりだ。。。）が。これは、勉強をしないと絶対に分からない。実家に帰るときには行く途中で少し特訓を

するが、すぐ忘れる。長期滞在になる場合に備えて、少しづつ、ボ  
キャブラリーを増やさなくては。。。

次回は、友人達のことを少し紹介しようっと。



彼の同業の友人に、源さんという人がいる。

右近源太郎。彼もそこその画家だけれど、事業家だ。アトリエも幾つか持っているし、絵画塾なんかも開いている。だから、個展をするときなんかは、お世話になったりもする。

源さんの作品は、ダーリンのとは違って、より華やかだ。テーマ自体は似ているけれど、一番違うところは、ダーリンのはラインが基調になっていて静かなカンジなのだが、源さんのは、暗いテーマでも華やかなテーマでも、とにかく賑やかだ。

なんか、これって、人そのものを表しているかもしれない！

源さんとはかく、賑やかな人なのだ。そして、よく誤解を受ける。

とっても繊細な人なのだけれど、賑やかな印象があるから、とても強い人のように思われるのかもしれない。でも、立ち直りも早いみたいだから、あまり心配もしないけれど。

この間、源さんがお中元を持ってきてくれた。ダーリンはそういうことには無頓着な人なのだが、このあたりでも、源さんは気配りも忘れない事業家なのだろう。

源さんが来ると、絵を勉強している人達の話題が良く上る。絵やアートだけで食べていくのって本当に大変なようだ。大学に行ってもなかなか自分の絵や作品を認めてはもらえられないらしい。大変なんだ。源さんとダーリンも以前、食べ物でバトルがあった

ようだ。売れない頃の話かな。詳細は教えてくれないけれど。

ところで、源さんは、家でも犬とかを飼っているから、うちの他の家族の受けもいい。大地は源さんがくると、必ずひざにのって愛想をふりまくし、ブリリンも嫌いじゃないようだ。媚は売らないけれど。でも源さんのお気に入りはゲンタで、いつも何か食べるものをあげて喜んでみている。名前が似ているからか。。。

もう1人、なんか業界違いの森さんというのがいるけれど、彼は変わっている。

サッカー教室なんか開いていて（あまり流行っていない）、多分、御曹司の息子か何かだと思っただけけれど、変わったことをしている人だ。

本人は、自分自身がアートだと思っているようで、現にカラダを鍛えるのに余念がない。確かに美しいボディ（見たことはないが）なのだそうだ。体脂肪率はかなり低いらしい。そして、彼もやはりお中元とか産地のお酒とかをよく送ってきてくれる。そうだ、日本中を旅して、旅行ガイドのようなものを作りたいとか言っていたっけ。彼の場合は、うちの他の家族の受けはそこそこ。多分彼が、あまり動物に興味がないからなのだろう。しかし、ブリリンには興味を持っていたな。珍しいからだろうか？

見てないところで、ブリリンをいじめて遊んでいるようだ。ブリリンは性格がいいから、迷惑そうにしても、付き合っただけあげている。たまに、虫とかを取ってきてくれるからか。

あとは、教え子達やら近所のおばさん、おじさんやら、田舎は田舎で、結構賑やかだ。



いよいよ長年計画してきた事が、実行に移される日が来た！

ダーリンはちょうど長期出張中　かねてからお願ひしていたモノが、「来たよ〜」という連絡が入ったのだった。

その名は・・・ミニブタ（ポットベリー亜種雑種）

あゝ、畜産には程遠いいが、ぶーちゃんを連れてのお散歩はかねてから私の夢だった。

ダーリンには以前相談したんだけど、「どこで飼うの？」とか、「世話ができるの」とか、当然自分は関わらないことを前提とした質問ばかりが飛んでいたし。でも、裏返せば、以上をクリアすれば、「飼ってもいいよ〜」ということだと、ポジティブに解釈をしたのだった。当然、ケージ作りをお願いしたのだったが、「できないよ〜」って言われたから、じゃあ、とりあえずはアトリエにて放し飼いにするしかないな〜、とっている。ブリリンとは何とか仲良くやってくれるだろう。

サナエツティこと私は、東京出身だけれど、子供の頃はまだまだ自然がたくさんあった。いわば田舎だったときもあった。サナエツティが生まれたのは武蔵野の面影が残る多磨霊園の近くの病院。だから何となく、サナエツティは多磨霊園から来たような気がしている。多磨霊園は墓地だけれど、Amazing Graceの音楽がびつたり来るような場所です。

そういえば、TM Networkっていうバンドがあったけれど、このTMは多磨から来ているのだそうだ。小室さん曰く、「武蔵野のイメージ」って、Twitterで言っていた。やあ、同志だあと思って喜んだんだけどね。

ちなみに、源さんも東京出身で、アトリエも絵画塾も東京にある。

で、話は元に戻って、このミニ豚ちゃん、名前はなんにしよう・・・  
・ダーリンが見て怒ったら、カトリーヌにしてもいいかな。

このミニ豚ちゃんが、アトリエにいて邪魔になったら、ケージくらい作る気になってくれるかもしれないし。最近画風が、マンネリになってきたから少し、新しい手法を取り入れようかな、とも言ってたし。チェーンソウを使って彫刻作りもいいなとってっていたし。

今年は暑くって、田舎もなかなか暑いんだけど、涼しくなってきたら、いよいよ念願のサンプル菜園にも着手をしたいな。このミニぶーちゃんはその時の秘密兵器になってくれるといいんだけど。いずれにしても、ダーリンが帰ってくるまでにはまだ、時間がある。それまでに、このぶーちゃんとの生活パターンさえ築き上げてしまえば、ミッション完了？

そのうちに、ミニ田んぼも作りたいしな。その時には有機農法の一つで、合鴨農法を試してみたいのだ。以前某テレビ局の「プロフィールショナル」に出てた人。HPはここ <http://blog.gaijagomokazoku.com/>

合鴨かわいいしね あ、ケージが必要なのかな。夢はまだまだ、広がるよ。

ぶーちゃんが来た。ショップの人が連れてきてくれた。

基本的に動物は、あまりに小さいうちに親元を離れてしまうと、情緒不安定になるのだそうだ。だから、今回のミニ豚ちゃんも2ヶ月はママのおっぱいを飲んで、きちんと獣医さんの診断を受けてきた。猫の大ちゃんもそうだった。ちなみに、大ちゃんの家系図はすごいのだ。28代前までさかのぼったものをキャツテリーからもらっている。

話は戻って、ぶーちゃんの名前はとりあえずブーリン2号としておこう。ブーリンと区別するために、2号はつけておく。もしかしたら、カトリーヌになる可能性もあるけどね。

ブーリンが来てから、まずは、排泄の訓練。いくらなんでも、アトリエ中が匂ったら、まずい！基本、犬と一緒にだそうだから、大ちゃんにも手伝ってもらって、トイレを覚えてもらうことにしよう。

ブーリンが来てから何日かして、森さんが顔を出した。

誰かから、ブーリンを飼っているっていう噂を聞いたらしい。田舎は、情報が早い。いやはや。。。

森さんの友人で、同じくミニブタを買っている人がいるらしくって、見に来たようだ。

まだ小さいのを見て、「小さい」とかなんとか、訳の分からないことを言っていたが、珍しく気に入ったようで、遊んでくれていた。

私が、そのうちに、家庭菜園ならぬ、サンプル菜園を作りたいんだ、という事を話すと、俄然、張り切りだした。

そして、菜園作りを手伝ってくれるという。なぐんで、ラッキー

森さんは、鍛えているだけあって、畑仕事には向いているかもしれない。。。

それに、なんだか、各地を旅行していて、いろいろな農場も視察しているそうなのだ。知らなかった。

早速、どこをどうしたらいいかを、もうその場で決めてしまっていた。やること早い。

で、実際に、雑草を抜いて作業を始めるのは、涼しくなってからにしよう！ということになった。それまでに、必要なものはいろいろ用意してくれるようだ。

結構、仕切りたがりなようだから、もうここは、全て任せてしまおうと思った。庭のようなところは、今は何も植わっていないから、多分ダーリンも文句は言わないだろう。逆に喜ぶ気がする。

そのうち、合鴨農法の田んぼも作りたいのだといったら、森さんは、それも自分がやると言った。いい案があるらしい。

ついでに鴨のケージはどうしようかなと相談したら、「それは、ハマさんでしょー」との答えだった。あまり、大工仕事は得意ではないようだ。。。

あ、ちなみにハマさんは、うちのダーリンのことです。浜口って言うからね。だから、今はサナエッティも浜口になってます。夫婦別姓は憧れだったんだけどね。

なんか、いよいよ夢が具体化してきたな。ぶーちゃんとブリリンは幸運の女神達かも。(ブリリンは女神じゃないかもだけどね。)



昨日、ダーリンから連絡があった。個展の準備は順調らしい。でも、今回の秋の個展は結構大規模だから、ちょっと手間が掛かるらしい。もう少し、準備を手伝うとのことだった。今回は、源さんも合同だから、やっぱり大規模かな。

もう学校も始まっているのにねー。今回は源さんが一緒だから、私が手伝いに借り出されることもない。けれど、たまには顔をださない。ある程度、展示会場が何とかならないと、邪魔なだけだからね。アトリエも、今は作品が出払っていて、結構閑散としている。ダーリンによると、展示品の多くは自分でレイアウトするけれど、中にはいじれないものもあって、心外だそう。つきっきりで展示をするのも、アーティストの仕事のうち。プロというのはそういうものなのだ。

さて、ブリン2号も少し、家に慣れてきた。それでもまだ、夜はブヒブヒいうから、寝室に連れてきて、バスタオルにくるませて寝させている。だれかそばにいと安心するらしい。ときどき、大地が来てふんふん匂いを嗅いでいるが、まだ、警戒態勢を解いていないようだ。もう少し時間がかかるな。ゲンタには、まだ合わせられない。どちらもびっくりしちゃうだろうから。もう少ししたら、ゲンタ用に森のどんぐりとか、椎のみを拾いに行こう。ブリンはやっぱり蛇だから、エアコンが苦手。あまり寒くなると、冬眠するみたいになる。

9月に入ったけれど、気温はなかなか下がらない。日中はまだ、暑い。畑の準備もきつと、もうちょっと経ってからだろう。

そう思っていたら、森さんから連絡が入って、今度の日曜日は練習試合があるから、応援に来い！ということだった。ま、手伝っても

らうんだから、少しは差し入れを用意して行かないといけないな。もちつもたれつ、と。

ここはやっぱり田舎だから、私が1人でいるって分かれると、周りの人が、いろいろ気を使ってくれるのが嬉しい。都会じゃ、ないことだ。森さんも、気を使ってきているのだろう。彼なりに。でも、差し入れは絶対に予定に入っていそうだから、少し、頑張らないといけない。

差し入れはやっぱり、おにぎり！それと、定番のから揚げ、卵焼き。そんなところ？ だけど、試合をするだけのメンバーがいたっけ？ サッカーって、11人でするスポーツだったよな、と思いがから定かではない。もしかしたら、どこかから、借りてくるのかもしない。もう少し、勧誘に力を入れればいいのに。なんて、大きなお世話はあまりやかないようにしなくては。役員メンバーにいつの間にか入れられそうだから。

ちなみに、ダーリンは、食べ物とちよつとのお酒を与えておけば、結構満足なんです。お味噌汁が好きで、和食派。今時珍しい気もするけれど。動物達も食事さえ与えておけば、結構満足。なんか似てる。

まだ、ぶーちゃんはやつと手がかかるけれどね。私がママ代わりだから。早く大きくなって、お散歩に連れて歩けるくらいになるといいんだけどね。今は連れて行っても、ほとんど抱っこしてる状態だから。

芸術の秋、実りの秋、スポーツの秋。

田舎は少しづつ、冬支度の準備に入る。

台風が来る！ 今年は少なげに見えたけれど、来るものは来るんだなあ。しかも本州を横断して、それもすぐ近くを。

今年の日本は異常気象なのか、とてもアツイ！ けれど、台風は怖い！ 都会に住んでいるときには、Hey! Jumping Jack Flash! It's gas, gas, gas.

なんて、ロックンロールしてたけれど、田舎はそうは行かない。しかも、ダーリンは不在。

展示会の設営は終わったようだけれど、いろいろ不具合が出てきたりして大変なようだ。ちよつと規模が大きくなると、大変だよな。今回は美術誌からの取材もあるみたいだし。けれど、ダーリンはほつとくとそのまま放浪の旅をしかねないから、ある程度のところまで呼び戻さなくてはいけない。これは、さなえつていの大事な仕事のひとつ。源さんが一緒だからってあまり当てにはできないのだ。けれど、「そろそろ帰ってきてね」ってというと、素直に帰ってくるどころがこれまたダーリンのいいところだ。タイミングかな。きつと「直ぐ帰ってきて」なんていうとダメなのかもしれない。

あ、そうそう、台風。ある程度、準備しなくては。アトリエが一番気がかり。ほとんど作品は残っていないにしても、全くなくなつたわけではないから。次回作の書きかけが数点。どうする？つて、窓さえ壊れなければ大丈夫なだけだ。やっぱり、嵐は都会と違って田舎では結構脅威なんだと思った。近くに崩れてくる崖はないけれど、川はある。溢れてきたら水浸しだな。少しこの辺は高くなっているから、大丈夫とは思うけれど鉄砲水って怖いって言うし。夜中なんかに来られた日には、周りに民家が少ないから余計心配と思いつつ、描きかけの絵を見てると、ん〜、絵っていいな〜と思わず

見いってしまっ。

こんな風に描けたらな、といつも思うのだが、中学のときに美術で2をとって以来、自分は美術には向いてない、と早くも自覚したのだった。ドローイングはまあまあだったのに、筆を取ると、何でこんな絵になるのか自分でも分からないくらい、下手な絵しか描けなかった。頭の中ではこう描こう!と思うのに、絵の具を塗っていくとまるで違って、なんだよこれ、って自分でも思ってたし。才能とというのは全く無いときはないんだ。

で、他の家族はいつも通り。なにか不吉なことが起これば、彼らが何かの兆候を示してくれるんじゃないか?と期待している。ゲンタも元気いっぱい! いつも通り。君はきつと、何かあったら物陰に隠れて、自分だけ助かるつもりなんだろう? しかし、そんなことを言ったら、大ちゃんもブリリンも一緒か…。

ぶーちゃんは、一番頼りになって、一番頼りにならない唯一の拠り所かもしれない。なんか、日本を背負っている気がするのだ。ぶーちゃんは…。

そういえば、あの森さんは、富山に行った様だ。立山に登ったといっていた。山岳フェチかとおもって、私なぞ、高尾山くらいしか上ったことが無い、って言ったら、その立山にある神社に御参りするためだったらしい。決して山登りフェチではないとのこと。でも山頂ピークには霊験新たかな物が宿ってるんじゃない、とか思ったが言わないことにした。立山の郷土風土も学んできたらしい。あの辺って風が強くて、よく、JRも止まったりするらしいけど。“おわら盆”とか”風の盆“というお祭りがあるらしい。なんか、響きがいいなあ。

しかし森さんはこんな時、頼りになるだろうか…。源さんと同様、あまり当てにはできない気がする。本当に危険が迫って、或いは実際に災害にあつたら、俄然張り切って助けるタイプだと思う。

と、いうことで、ローソクとか、テレビとかインターネットでしっかり準備をしておこう！ あ、避難場所どこだったっけ……。

台風一過！ 雨はすごかったけれど、なんとか昼にかけて抜けていったから特に問題も起らなかった。川も氾濫はしなかったし。よかった。

こういう時、ダーリンは「あまり、気にしても仕方がないよ」と言うんですけれど。分かっちゃいるが、やはりお家と家族を守らねばって思うわけですよ。特に1人でいるときは。

展示会のほうは、もう始まったようだが、源さんのほうでまだまだやることがあるらしく、まだまだダーリンは戻ってこない……。こんなに留守をしていると、本当にいるのか？と言われそうだけれど、います！

で、何とか暑さも収まって涼しいと言うか、肌寒い位になった。台風が吹きぬけた跡は空気も澄んでいる気がするし。でも周りの畑とか、果樹園は結構大変なようだ。森さんにでも連絡をして、どこか手伝いが必要なところが無いかを聞いてみよう。彼は結構有効な情報源なのだ。

家は、（結構ヘンな）動物はたくさんいるけれど、子供がいないから、なかなか周りとの接点取りにくいのだ。

それにしても、彼のサッカー教室は他人事ながら大丈夫か？と思っちゃうけれどね。やっぱり、この間の試合はメンバー足りなくっていろいろかき集めたみたいだけれど、子供の試合とはいえ、座布団があつたらお相撲のように座布団が飛んでいただろうなと、最後には思った。

そうだ、今日はうちの掛かりつけの医者のお卵を紹介しよう。もちろん、動物の家族の。

彼女はまた、獣医科の5年生。来年、か再来年に獣医の試験を取っ

て初めて獣医になれる。今はまだ、クスリとかはもらえないけれど、ちよつとした病気ならば彼女に相談できるから、結構安心なのだった。東野愛子。それが彼女の名前だけれど、彼女とはオランダにいるときに知り合つて、それ以来の友人であり、同志であります。

彼女の家庭も複雑で、彼女には現在2人の母親がいて当然1人は生みの親で、もう1人は育ての親。けれど、育ての親のほうは、彼女が中学3年の時からだから、ほとんど友達感覚で、今は、父親も他界してちよつと、疎遠になりつつある。彼女が親の離婚や、腹違いの妹ができて愚れずに全うな人生を送っているのは、多分、異国での生活が彼女を強くし、また、その時からずっと、獣医になろうと言う夢を持っていたからではないか、と密かに思っている。

ま、この間も彼女から携帯メールで自分が作った、ピーマンの肉詰め写真を送ってきて、嫌いだったピーマンが食べられるようになった、と言つて、喜んでた。だけど、あの肉詰めピーマンうまそうだった……。今度作ってみようつと。あ、もちろん作ったことはあるんだけど、また作ってみる。

彼女もほぼ都会暮らしで、2度ほど青森で養豚所に研修で行つたようだけれど、やっぱり田舎はダメだと言つてた。はあく。せつかく獣医になるんだから、もう少し志を高くして海外青年協力隊にでも、参加すればいいのに。でも、本人は大きな動物は怖いと言つていて、町医者になりたいのだそう。もしかしたら、意志が変わるかもしれないけれどね。私としては、近くにいてもらったほうが助かるけれど。

ちなみに彼女の彼氏は格闘技をやつていて、いつちよ前になるのかなあと思つているけれど、まあ今のところ彼女の心の支えにもなつてはいるみたいだから、将来はどうすのか知らないけれど、今のところは結構いいカップルだな〜と思つてるんだな。

さて、そろそろ涼しくもなつてきたことだし、森さんサンプル菜園

の準備してくれないかな？……。



いよいよ、サンプル菜園をスタートさせる日が決定！ We'll Done！ 森さん やればできるちゃん！ ダーリンも戻ってきて、その日へのスタンバイはOKだ！

が、実は帰ってきて早々、ブルーリンを見たときには、「……！」と一言も言わなかった。「……」は、多分、絶句、という表現が当たっているのじゃないかと思けれど、最後の感嘆符はなんだろう？（そういう表情をしていた）ま、疲れていたんだろうと思った。（或いは感銘を受けて言葉にならなかつたか）こりゃ、今回はブルーリンのときよりも手強いかな、と思った。けれど……

次の日、散歩に連れ出しているところを見ると、きつと、受け入れる余裕ができたのだ！ ばんざーい！ ぶーちゃん、かわいいからね！ で、名前はモン・テ。ダーリンはカトリーヌがいいのかと思つたのに。どいうことか山を意味する名を付けたかつたようだ。ふむ。でもモンちゃんはモンちゃんてかわいい。よかつたね。モンちゃん！名前が付いた。

そして、戻ってきて最初の美術講師としての仕事が終わつた日の夜に、サンプル菜園の話を持ち出した。この時点で、多分ダーリンにも何事も受け入れる「余裕」のようなものができたのだと思う。黙つて話を聞いた後一言、「僕も一緒に手伝うよ」

この部分には、異論は全く無かつたようだ。きつと、モンちゃんを見て酪農をやり始めるのかと誤解したのかもしれない。酪農ではなく農業と聞いて、少し安心したのかも。モンちゃんは、お肉用のブタさんじゃないのに。

サンプル菜園開拓初日には、源さんも来る予定。源さんは、自宅で

いろいろ栽培をしているらしい。一度サボテンのような植物をもらったことがある。サボテンは手がかからなくて、本当にいい植物好きだ。しかし源さんは畑というものを耕して事はあるんだろうか？ 多分、ない。けれど、はまるとことんはまるから、この辺りはなんだか森さんに似ている。しかし、源さんも仕切りやだからなあ。最後のお疲れさん会だけでもいいんだけど……。

このことをダーリンに話したら、ほぼ同意見のようだった。そこで作戦会議召集！ と、いつても二人だけだけれど。大ちゃんと、ブーリンがオブザーバー。

で、「源さんは急がしそうだから」とか、「源さん、畑仕事は腰に来ますよ」、とか、2人であらゆる“言訳”を出し尽くし、そこから一番いいものを選ぶといういつものやり方で会議は進んだ。

そして、今回の作戦名は「平穩無事作戦」となった。この辺は源さんの扱いに慣れているダーリンが決行隊長。要するにうまく言っつて、森さんとあまり対立しないようなるべく時間をずらして来てもらうこととする。後は、こちらで拠所なく口裏を合わせる。

以上、作戦会議終了！

後は、多分全員が楽しみとするお疲れさま会の内容。ま、飲み物はそれぞれ好きなものを飲んでもらうとして……メインは手巻き寿司！ と私が提案。当然ダーリンも賛成。やっぱり手巻き寿司は人数が多いほうがおいしいよね。なんといつても楽し……。

前日に食材を買い込んで、生ものは近くの魚屋さんに頼んで持ってきてもらう。こういう時、田舎って便利。スーパーじゃないから予約をしておけば適当に見繕って持ってきてくれるのだ。

森さんは当日、仲間達を連れて朝早くから来る予定だ。全員が地元かどうかは知らないけれど、4〜5人来るみたいだから、その日のうちに畑のほうは何とかなるだろう。田んぼはどうするのか知ら

ないけれど。兎に角こちらで用意するものは、食料だけのようだ。  
そして、朝に弱いダーリンに期待はできないから、おにぎりくらい  
前日に作っておこう。なんだか、遠足のようだな。ワクワクする！

さて、サンプル菜園開拓の日。前日から具合が急変して体調を悪くしたダーリンは源さんと同様、お疲れ様会のみ参加となりそうだった。まあ、源さんもダーリンも展示会があつたり夏の猛暑の疲れが出たりで弱つてたんだらうな。けれど扁桃腺からのいつもの風邪っぽいので、無理をしなければ大丈夫！

私もダーリンも扁桃腺からの風邪は要注意なのだ。だから私は今では、ちよつと“やばい”と思うとうがいを目に何度もする。うがい薬は殺菌性のものがおすすめかな？ たいした事にならずに済むよ。予防が肝心なんだよね。でもひいてしまつたら養生をしてね。風邪は万病の元！

で、森さんたちが仲間を連れて到着後、今日一日のオリエンテーションがあつて、(森さんが隊長だ)作業開始！ ま、まずは誰が考えても草刈だけだね。

夏の間元気成長をして勢力を謳歌していた雑草たちがまず、電動カッターで切られていく。文明の利器だな。鎌で刈つていたら今日一日掛かるだらう。ものの小一時間で辺りの景色が一変した。日本の里山つて、最近では熱帯雨林のジャングルのようだ……。

マングローブは無いけれど。

辺りの景色が一変したところで冷茶タイム！ あ、ここで、森さんたちのメンバーを紹介しておこう。森さんと同年代の山本さんという男性と(森さんが連れてきたのは男性2人に女性1人だった。森さんの彼女かな?)須賀さん(若干若め)。この3人はどうも日本全国行脚のメンバーでもあるらしい。それともう1人が吉崎さんという女の子。例の冴えないサッカー教室の事務をやっている人だ。ここで、女性の手があるのはありがたい！ 彼女に手伝ってもらつて冷えた麦茶を出した。でも、森さんは炭酸入りがいいっ

て言うつから、彼女にちよつとお使いを頼んだ。中高生が行く駄菓子屋みたいなお店が一番近いところだから、そこまで車で行ってもらう。森さん！水分なら何でもいいじゃんか…

森さんがここで（やっつ）「あれ？浜さんは？」と聞いてきた。なんだ、今まで気付いていなかったのか、と思いつつも事情を説明して、どこかの地点で起きだしてくると思うと言うつと、「へえ〜」と言うつて、直ぐに次の作業の説明をくださった。まあ、きつと最初つから森さんの中では数に入っていないかつたのかも…。

午前中の休憩終了で、ここからは土の掘り起しが始まるわけだけれど、この辺りからは森さんがもう一人呼んでいたみたいで、近所のおじさんが登場。耕し方についていろいろ指示をしている。おじさん、さつすが。プロフェッショナル！森さんだけじゃ一抹の不安があつたけれど、これで安心だ。肥料とか森さんが用意してきたのもチェックしてくれていて、大変ありがたいです。これで、安心して見ていられる。（この時点で、私はほとんどお役に立っていないのです。）

お昼までには、掘り起こしも大分進んでいて、この辺りでお昼休憩。秋と言つても陽射しは暑くつて、お昼食べた後もちよつと作業には向かないつて事で、各自気ままに休んでもらつた。お昼ごはんのときには、ダーリンも起きだしてきて皆さんにご挨拶。一緒に食べた。ダーリンはあまり社交的ではないけれど、森さんの仲間とは意気投合したよう。みんな変わつてゐるからね。みんなは、モンちゃんと遊んだり、家の中にいるブリリンやゲンタ、大ちゃんを眺めたりして勝手気ままにやつてゐる。森さんの連れてきた男性2人は東京住まいつて事だから珍しいんだろうな。それに、アトリエも。

さて、日も少し傾いてきて、やつと最後の仕上げに掛かつた。プロ

フエツシヨナルのおじさんは、一緒にお昼ごはんを少し食べて、まわりの意外さ（異常さ？）に恐れおののいて早々と去っていた…。後日、東京名物チヨコバナナでも持っていか…。最終的には、種とか苗を植えなければいけないんだけど、まず、種は別の容器に入れて、ある程度大きくしてから植え替える。この時期だと、大根とか葱かな。森さんはその小さな容器に入れて、家の横に並べておいてくれた。いいところある！　そこまでやってもらえれば、あとはさなえって一人でもできるよ。多分

さて、後はお疲れ様会。いつのまにか、源さんが来ていて、ゲンタと遊んでいた。この頃になると、ダーリンは全快したかのように振舞っている。明日また、風邪がぶりかえすぞ…。ある程度のとこで止めなければ…。源さんが一通りサンプル菜園を見て、「よくできたじゃないか！」と絶賛していた。そうです。褒めてください。一応みんな頑張ったので。

この後のお疲れ様会はまあ、浜口家に集まったからには、みなさん覚悟していてくださいかねということ…。ダーリンはこっぴどいのが好きなんです。

お疲れ様会のことは、また後日！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5303n/>

---

田舎暮らしのさなえってい

2010年11月19日11時33分発行